

平成28年5月23日(月)

老球の細道237

俺流「やる気にさせる」

会津バスケットボール協会 室井 富仁

私は高校時代、バスケットボールが面白くて、楽しくて、練習を休みたいと思ったことは高校一年生の7月19日(バスケットボールに目覚めた日)以来一度もなかった。当時のチームメートもやる気のない者はほとんどおらず、毎日が真剣勝負の練習となった。やる気のない者は自然と退部し、意識の低い者が居なくなる集団だったので、1年生の頃は下手くそでも3年になるといつのまにか上手になっていたのがバスケットボール部の伝統だった。やる気のある者の集まるチームは集団のまとまりを増すだけではなく、集団の目標までレベルアップしてしまう。

多くのコーチに相談されるのが「選手をやる気にさせるにはどうしたら良いか」ということである。コーチがいくら熱心に指導しても選手がのってこない。このような時コーチは本当に悩み、混迷する。そんな時最初に話すアドバイスは傷に塩を塗りこむようだけれども「選手はコーチが思っているほど思っていない」という言葉である。コーチは「巡礼者のごとく」。選手に対して何も期待をしない。ひたすら選手のために、やる気になるような手立てをこじじるしかない。山本周五郎の小説に出てくる主人公のごとく。

選手をやる気にさせるには3つの観点から手立てが必要だと思う。

1・コーチ自身の問題

コーチ自身が「炎のコーチ」となってやる気満々でコートに出ること。やる気のない選手はコーチのそばにいてだけで火傷をするからコートから出て見学させる。やる気になったらコートに戻す。場合によっては家に帰して翌日出直しさせる。

やる気のない者が練習に参加することによって2つのことが心配される。やる気のある子たちに迷惑をかける。やる気のない本人はけがのリスクが出てくる。個人のケガ、チームの精神的なケガ(精神的退廃)は絶対避けなければならない。

2・練習内容の問題

魅力ある練習は誰でもやる気になる。魅力ある練習は、「今日はどんな練習かな?」と毎日が楽しみでワクワクする。毎日同じ練習、基礎練習だけでゲームのない練習、辛いやかりで楽しめないような練習はやる気がしない。練習メニューはコーチの腕の見せ所である。コーチ自身が面白くなり、選手に早くやらせたい練習を工夫したい。

3・コーチングスタイルの問題

コーチのいう事を選手が素直に聞けるコーチの影響力もやる気にさせる重要な要素である。コーチの選手に対する影響力の源泉は熱意、誠意、創意、室意の漢字の「4つの意」もさることながら、他にもう一つのひらがなの「4つの『い』」がある。

①怖い:練習に対する姿勢、時間、あいさつなどチームの規律の文化に対して厳しい。選手よりも早くコートに出て準備するなど自分自身に対しても厳しい。

②凄い:バスケットボールに対する知識が凄い。バスケットボールの技術が凄い。

③素敵、カッコいい:人間的魅力。熱意、褒める、認める、明るい、前向き等。

④ありがたい:面倒見が良い。思いやりがある。ミスしても励ましてくれる。

他人(選手)と過去は変えることができないが、自分自身は変えることができる。